

第8回 いけじま ふくまんじ いせき
池島・福万寺遺跡

現地説明会



1996. 3. 2

 (財)大阪府文化財調査研究センター

のぶゆき

池島・福万寺遺跡はタイムマシン

池島・福万寺遺跡は八尾市と東大阪市にまたがる大きな遺跡で、治水緑地の建設にともなって発掘調査がつづけられています。これらの発掘調査によっていろいろな時代のようにすがだんだんとあきらかになり、この遺跡の大切さがわかってきました。

弥生時代 (2400年前～1700年前ころ)

弥生時代は日本でもコメ作りがはじまった時代です。

ここ池島・福万寺遺跡でも、弥生時代の田んぼが見つかっています。弥生時代の田んぼは5m四方前後のものが多く、現在の田んぼにくらべてとても小さいものであったことがわかってきています。残念ながらムラのあった場所はわかっていませんが、さほど遠くないところにムラがあったのでしょうか。



古墳時代 (1700年前～1400年前ころ)

古墳時代は各地で大小さまざまな古墳が作られた時代です。

ここ池島・福万寺遺跡の東にも心合寺山古墳という大きな古墳が作られています。

池島・福万寺遺跡では古墳は見つかりませんが、今回の調査で建物や井戸などが見つかり、古墳時代にはムラになっていたことがわかってきました。そこからはお祭りやお供えにつかった「玉」などもたくさん出土し、失敗品も出土することから、このムラで作っていたのでは、とも考えられています。

このほか、このムラからは煮炊きにつかったカマドがたくさん出土することが非常に特徴的な点だといえます。



奈良・平安時代 (1300年前～800年前ころ)

奈良・平安時代は、奈良に平城京、京都に平安京という大きな都がおかれたはなやかな時代です。

それに比べると、ここ池島・福万寺遺跡のあたりにはのどかな田畑がひろがっていたようです。

ただ、調査の結果、弥生時代の小さな田んぼではなく、正方形にきちんと区切られた大きな田畑がつくられたことがわかりました(条里制)。



鎌倉時代～現代 (800年前～いま)

ここ池島・福万寺遺跡の周辺では、鎌倉時代から現代にいたるまで、正方形に区切られた条里の地割りをまもりつづけていたことがわかってきました。

とくにこのあたりでは田の一部を高くした「島畑」がつけられていたことが発掘調査によってあきらかになりました。

江戸時代にはそこで綿をさかんに栽培し、それをつかって有名な「河内木綿」をつくっていたことがわかっています。

弥生水田と池島・福万寺遺跡

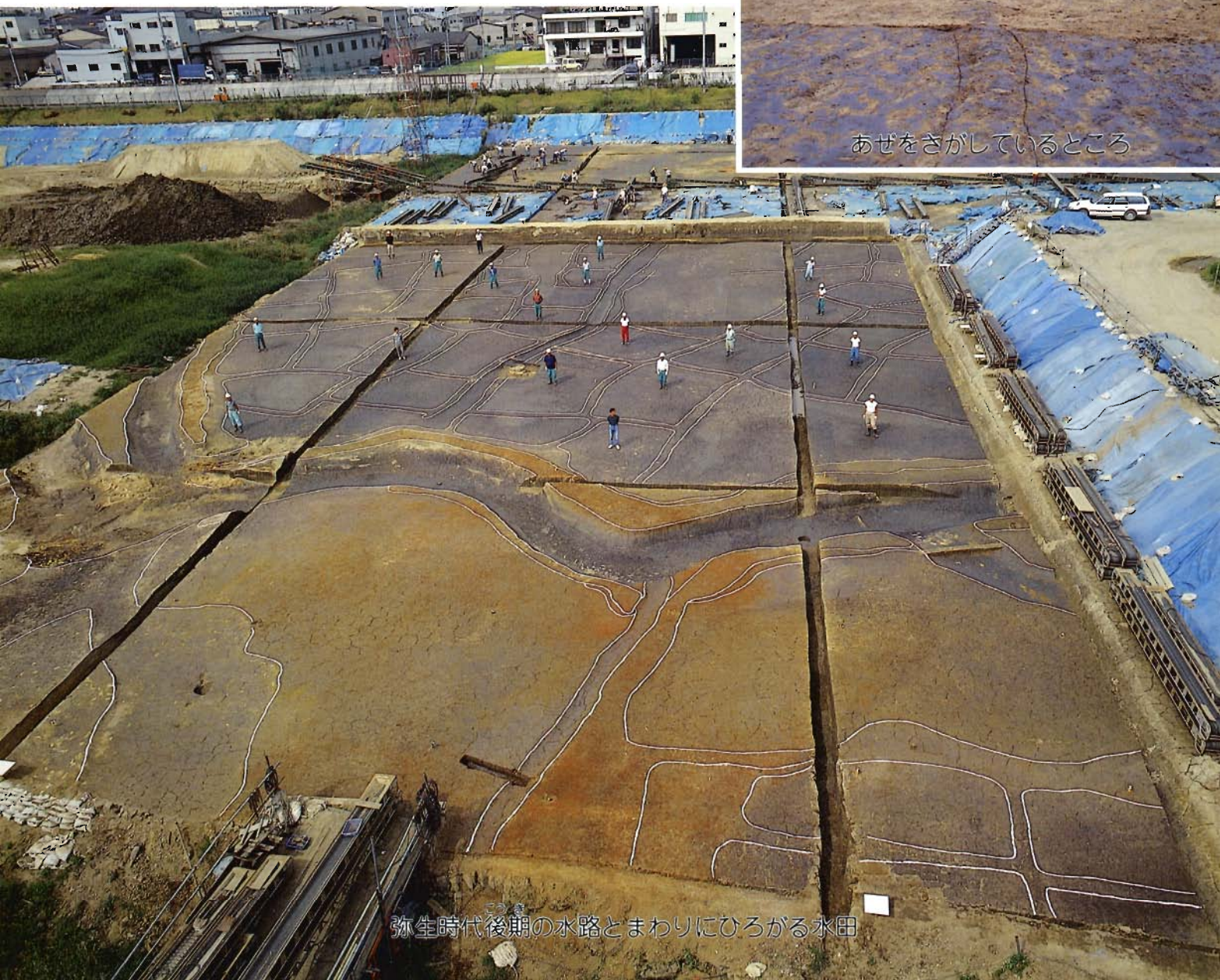
弥生時代は日本で本格的に稲作、すなわちコメ作りが開始された時代です。今からおよそ2400年前、朝鮮半島からもたらされた稲は生育に十分な水を必要とする水稻で、その証拠に各地で発見されている田んぼ（水田）には、川の水をせき止めるため杭や板を組み合わせで築いた堰や、堰により水位が上がってあふれた水を田んぼに送ったり、いらなくなった水を他へ流すための溝（水路）、隣の田んぼに水を回したり、水路に流したりするために、土を盛り上げて作った境（あぜ＝畦畔）の一部を途切れさせた水口といった、水をじょうずに利用するための設備が備わっています。また、あぜで区画された田んぼの面積は今と比較して大変小さなものですが（小区画水田）、これも起伏のある地面を削らずに1つ1つの田んぼに水平に水をたたえる工夫です。

1989年から広い範囲にわたって発掘調査をしてきました池島・福万寺遺跡では、これまでの成果により確認されている3つの時期の田んぼの広がりや移り変わり、水利用の設備やその方法などがわかってきました。そこで今回は、その成果をまとめながら、弥生水田を紹介したいと思います。



弥生時代の水田（黒く見えるのが耕した土）

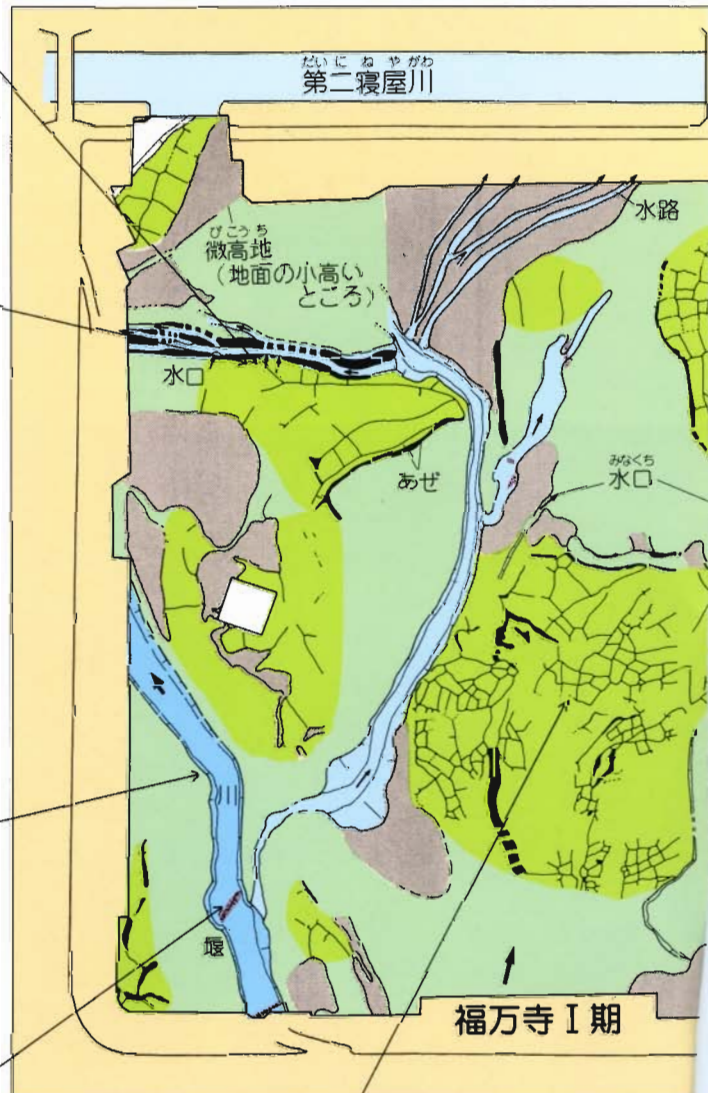
あぜをさがしているところ



弥生時代後期の水路とまわりにひろがる水田

水田をひらく ～ 弥生時代 前期末 ぜん き まつ

池島・福万寺遺跡で本格的に稲作が始まったのは、弥生たのは少し前にこのあたりを襲った大洪水で、それまでの調査では東と西に幅10m以上の大きな川が流れ、その間田んぼに水を送るために堰が築かれ、すこし小高くなったも手を加えて利用するなど、水が十分にいきわたるよう努小さな広がりや点々としており、1つ1つの田んぼも形やようずに対応できていなかったこともわかります。

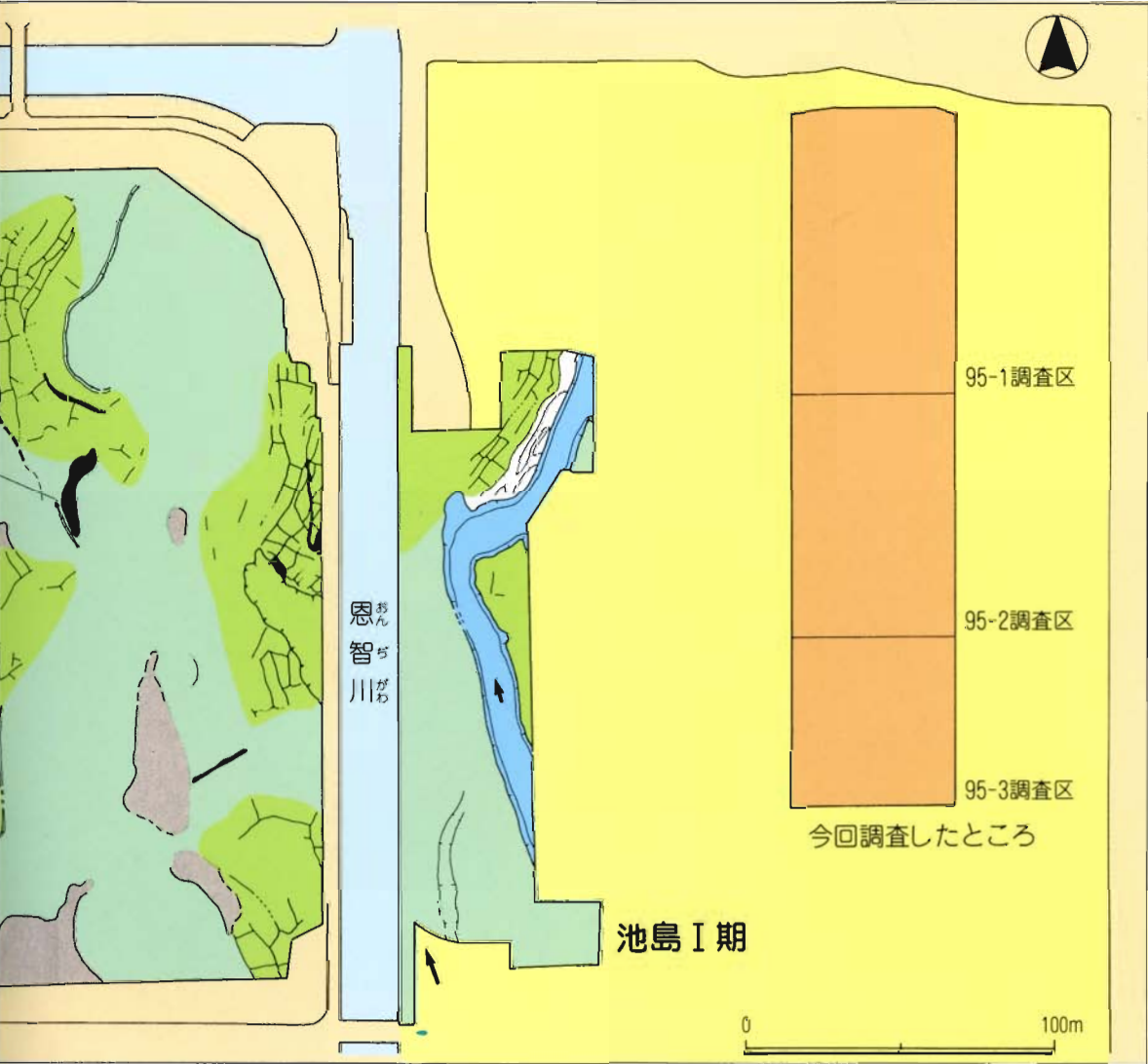


ちゅう き はじ
から中期初め(今から約2200年前)～

時代に入ってしまったのちのことです。そのきっかけとなつ
沼地が広がる湿地をコメ作りが可能な土地へと変えました。
を中心に田んぼが広がっていることがわかりました。川には
ところには水路が掘られています、低くくぼんだところに
力しています。ただし、田んぼは全体がつながることはなく
大きさがばらばらとなっているなど、地面の起伏にはまだじ



土器の出土状況



土器の出土状況

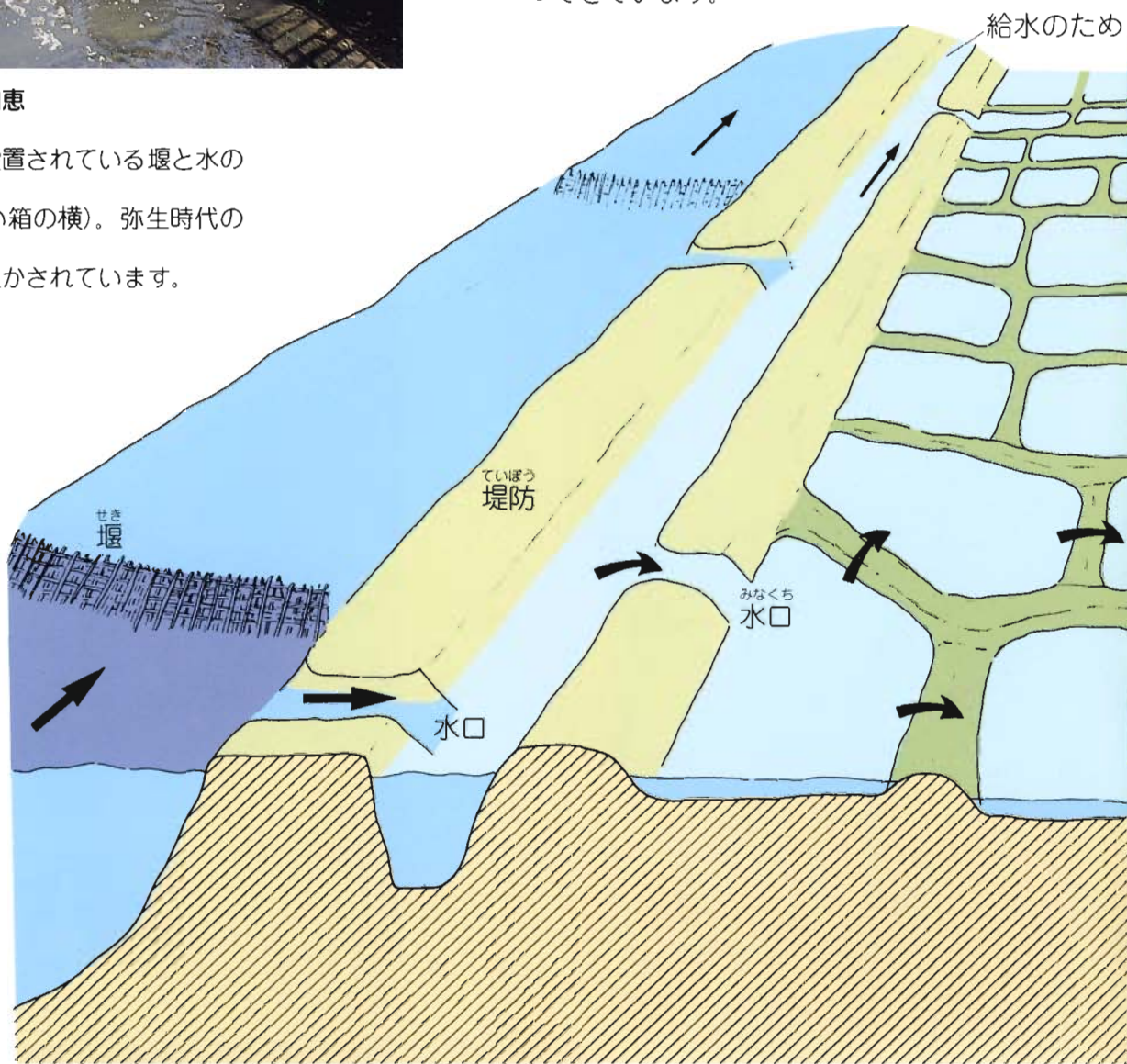


土器の出土状況



現代までのこる弥生人の知恵

遺跡の西、玉串川に設置されている堰と水の
取り入れ口（水口：青い箱の横）。弥生時代の
人々の工夫が現代にも生かされています。



田んぼをうるおす～水を得

田んぼや畑に水を引いて注ぎ、土地をうるおすこ
較的水の得られやすい場所を選んでひらかれ、堰や
しが続くと栄養が足りなくなり、稲の生育が悪くな
ます。

池島・福万寺遺跡では、川やいろいろな灌漑設備
ってきています。

田んぼに引く水は、川の水を利用し
れをせき止めて必要な高さまで水位を
た骨組みに土や植物をつめて作ります
を流れる水は田んぼの脇に設けられた
つばいになると水はあふれ、あぜを乗
起伏に合わせた小さい区画のため、水
んぼをうるおした水は最も低い場所に
れる水は再び川と合流することもあり
全体の中で働いており、計画的に田ん

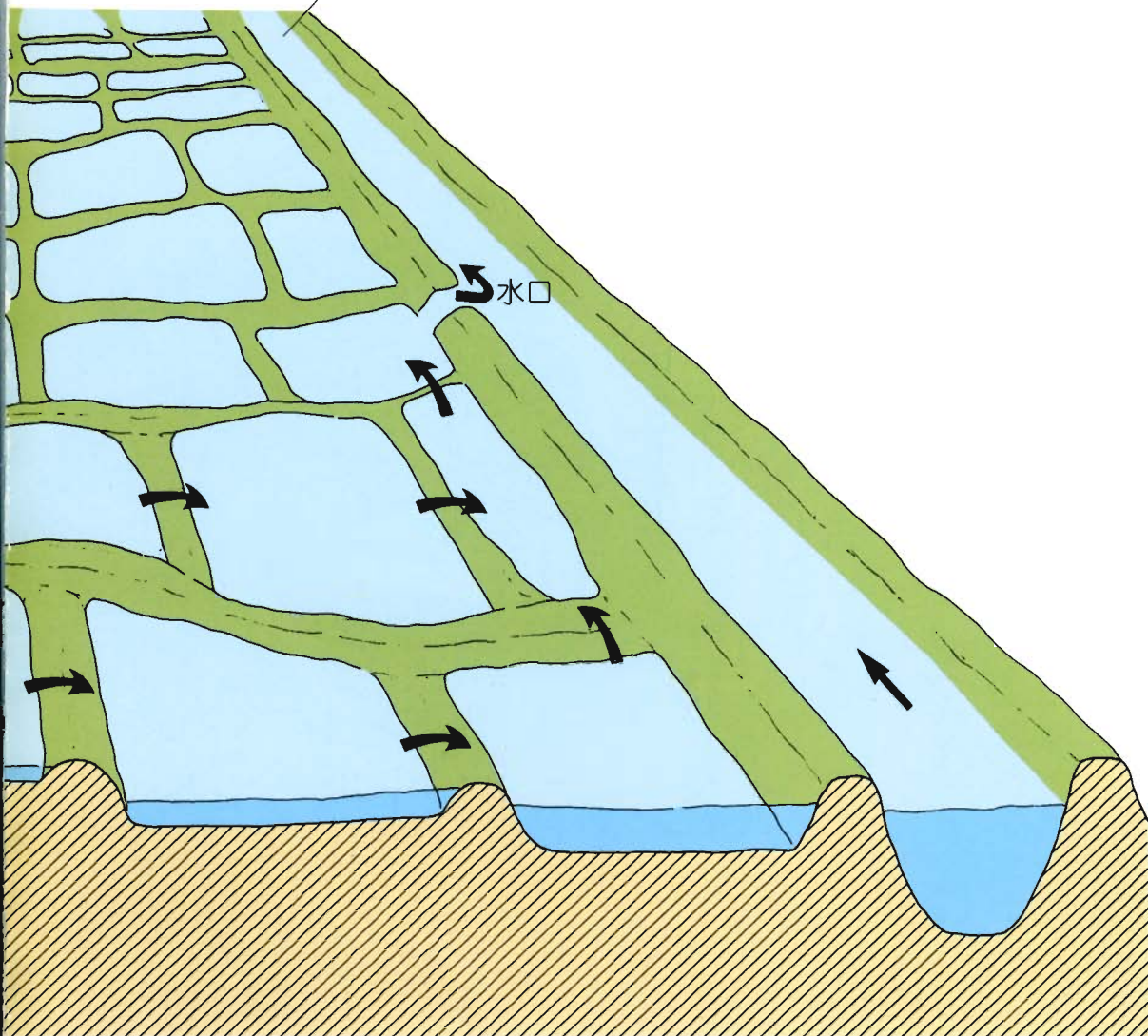
る工夫とそのしくみ～

とを^{かんがい}灌漑といいます。コメ作りには田んぼ全体をいっぱいにする水が必要で、そのため弥生時代の田んぼは比水路・水口など水を引く（^{きゅうすい}給水）ための灌漑設備を設けています。ところが、水とともに欠かせない土は^{びた}水浸ります。したがって、いらなくなった水を田んぼから他へ流す（^{はいすい}排水）ことは、給水と同じくらい大切となり

が発見され、広い範囲で発掘調査をすすめてきた結果、これらを使って行っていた給水・排水のしくみがわか

の水路

排水のための水路



ます。流れのある川の水を、横の^{ていぼう}堤防に設けた取り入れ口（水口）から給水のための水路に注ぐためには、流上げることが必要です。そのため流れの方向に直角に交わるように堰を設置します。堰は杭や板など木を組んが、洪水など急な流れには弱く、発見される堰のほとんどは^{こわ}壊れたり、砂に^う埋もれています。さて、水路の中水口を^く通って田んぼに入ります。実はこの場所が田んぼの広がりの中では最も高いところで、この田んぼがいり越えて次の田んぼへと流れていきます。水を入れるため1つ1つの田んぼは平坦となっていますが、地面のは順番に低い方の田んぼへと流れていきます。このような灌漑方法は「掛け流し灌漑」と呼ばれています。田集まり、あぜを^{とぎ}途切れさせて設けた水口を^か通って下を流れる排水のための水路に流れこみます。この水路を流ぶすが、より低い場所に広がる田んぼへと向かう場合もあります。このように給水・排水のしくみは、田んぼがひらかれた様子がわかります。

池島・福万寺遺跡と周辺の弥生時代遺跡

池島・福万寺遺跡のまわりには、数多くの弥生時代の遺跡があります。当時西方に広がっていた「河内潟」と呼ばれる大きな入江の周辺には、山賀遺跡などコメ作りを伝え、あるいは積極的に受け入れた人々がのこしたと考えられている遺跡が集中しています。一方、反対の生駒山地の斜面上には縄紋時代の遺跡が多く分布していますが、斜面からさがった低い場所に位置し、コメ作りを受け入れて弥生時代まで継続する遺跡もあります。それでは、池島・福万寺遺跡でコメ作りを始めたのはどのような人々だったのでしょうか。この答えを知ることは、人々がくらしていたムラの場所や様子がわからないいまの段階ではかんたんではありません。すぐ近くには時期の違う田んぼやお墓が見つかる大竹西遺跡がありますが、これら近くに位置する遺跡との関係を探ってみることも重要になると思います。

1. 縄手遺跡
2. 段上遺跡
3. 北島池遺跡
4. 馬場川遺跡（縄紋晩期）
5. 大竹西遺跡
6. 瓜生堂遺跡
7. 巨摩遺跡
8. 若江北遺跡
9. 山賀遺跡
10. 萱振遺跡
11. 東郷遺跡

